



教育条件の整備と 教職員の多忙化解消

市町教委・校長会への後期要請を行う

尾北教方は、11月に、来年度に向けてのいくつかの重要課題に関して、各市町教委および丹葉地区小中学校校長会への要請を行いました。主な内容を紹介します。

道徳の教科化 多様な資料の活用を

道徳の教科化に伴い、組合からは、次の3点について要請しました。

- ◎一人一人の率直な思いや心のありようや変容を認めることを基本的に評価を含めた指導のあり方を考えること。
- ◎「愛国心」の押しつけをしないこと。
- ◎子どもや学級の実態に合わせ、教科書を含め多様な資料の活用を認めること。

どの市町においても、「子ども一人ひとりの率直な思いを大切にすること」や「教科書を含め多様な資料を活用すること」が確認されました。

また、現在の「明るい心」や「明るい人生」については、「教科書があるので購

小学校での英語教科化 負担軽減の措置を

入しない」「各学年で1クラス分のみ購入する」「これまで通り、全員分購入する」など、市町によってさまざまな方向が示されました。

小学校高学年の英語教科化については、各市町や各学校ごとで、さまざまな対応が検討されています。組合からは、特に、次の内容について要請しました。

- ◎多忙化にさらに拍車がかからないよう英語の専科教諭の加配や評価方法の簡素化などの取り組みを進めること。
- ◎授業時数の確保については、現在の日課の中で、無理なくできるようにすること。

小学校において、新たに英語を教科にす

るのなら、本来は、英語の専科教諭が加配されるべきです。しかし、国や県からのそういった条件整備がなされない中、各市町においては、現状の英語講師のさらなる加配で、担任負担を軽減することが求められています。

組合からの要請に対して、岩倉市では、「担任と英語講師による授業を基本に考えている。とりあえず、移行期間への対応で1名増員したい」と、小学校での英語教科化に対しての基本的な考えと具体的な対応が示されました。

他の市町では、英語講師の加配の方向は示されませんでした。

また、犬山市では、「中学校の英語は、英語の教員で対応し、現状の英語講師が中学校に入っている時数分を、小学校に入ってもらおう」といった方向が示されました。

それでも、担任のみで行う授業時数分については、「英語講師と行った授業の復習を担当を行うような形で、負担軽減を図りたい」といった方向が示されました。

また、英語の教科化に伴い、文字の「読み・書き」の指導と評価への対応も懸念されています。そういった指導が強められることで、「英語嫌い」になる子どもが増えることは十分予想されます。

「英語嫌いになって中学校へ進学」という事態になると、中学校でも困難な状況を生むこととなります。

教師にとっても子どもにとっても無理のないよう対応することが求められています。

部活動

朝練習の見直しを

中学校の教職員の多忙化解消を図る上で、部活動の見直しは最も重要な課題であり、県教委も多忙化解消プランの中で大きく位置づけています。尾北では、全ての市町で、丹葉地区校長会で決められたの改善目標に向け、すでに取り組みが進められています。さらに、

「平成30年度秋を目処に、段階的に早朝練習を中止する」(犬山市)

「月曜日は部活動なし。朝練習については、意見を聞いて検討している」(扶桑町)

「朝部活については、今後研究していきたい」(江南市)

「平日の2日間は、午後の練習をやめるようにしている」(大口町)

「年度末に明らかになる県教委の部活動ガイドラインを見て、さらなる見直しを検討したい」(岩倉市)

といったように、部活動の一層の見直しについても示されました。

特に、朝練習については、生徒と教職員の家庭と学校の生活全体のバランスを考えると、大きな見直しが求められています。

行事や取り組み

抜本的な見直しを

多忙化解消で、管理職から「早く帰っ

てください」と言われても、仕事が多くて帰れないというのが実情です。会議や打ち合わせを減らすなどの取り組みも見られますが、大きな負担となっている各種の行事や取り組みについて抜本的な見直しをすることも求められており、すでに進められているものもあります。

小学校の陸上運動記録会については、丹波地区では、来年度から廃止することが決定しました。

授業後に一部の児童を残しての練習は、教師にとっては時間外労働であり、当日は、6年生全員が、午前の4時間の授業時間を使って会場校に出かけるなど、授業と時間外労働の観点から、大きな見直しが求められていました。

また、市町の美術展や作品展に関して、江南市では、来年度から、学校ごとの参加をやめ、一般の公募に合わせ、個人で応募する形式へ変更となりました。

市の行事の美術展に合わせて作品を作り、名札を準備し、台紙に貼り、会場に設置するといった一連の取り組みは、学校教育外の取り組みが多く、かなりの負担になっていることから抜本的な見直しがなされました。

そして、多くの小学校で実施している学習発表会(学芸会)についても、「真に、1年間のまとめの学習の発表の場となるよう、2月に実施し、形式についても、教室発表を含め、無理のない形でできるようにする」といった見直しを、来年度から行う学校が、市町において見られるようになってきました。

大きな行事や取り組みは、これまで長年続けてきただけに、抜本的な見直しは実際には難しいものがあります。

しかし、小学校の英語教科化に伴う時数増への対応や教職員の多忙化解消といった今後の重要な課題を考えると、抜本的な見直しは、やはり必要です。それをあいまいにする、結局は、多くの子どもや先生たちを現状よりさらに苦しい状況に追い込むこととなります。

見直しについては、「カリキュラムに含まれているか」「学校教育や教員にとっての本務か」「授業を大切にしているか」といった学校教育の大前提の原則に基づいて検討することが重要です。

その観点で見直しがなされることで、保護者や地域の方たちにもきちんと説明ができ、理解の広がりへとつながります。

各学校で、各種行事や取り組みの現状と今後のあり方について、全職員できちんと話し合い、管理職がリーダーシップを発揮して抜本的な見直しを進めることが求められています。

スクールソーシャルワーカー さらなる配置へ

今年度、江南市と扶桑町で独自にスクールソーシャルワーカーが配置されました。個々の子どもの家庭環境等で、さまざまな困難な状況が生まれている中、学校、家庭、行政福祉部、フリースクール、児童相談所

などをつなぐパイプ役として活躍し、担任をはじめ、学校現場を助ける役割を發揮しています。

組合からの要請に対して、犬山市と岩倉市において、今後、市独自で配置する方向が示されました。

LGBT

適切な対応を

LGBT(性的少数者)への理解を深め、適切な対応をすることの必要性は、学校だけでなく企業や社会全体で、広く考えられるようになってきました。

40人のクラスなら2〜3人いる可能性があると言われ、実際、ここ数年で、尾北の学校でも、保護者や本人から学校に対して相談がなされるというケースがいくつも見られています。組合からは、

◎LGBT(性的少数者)についての理解を深め、適切な対応が図られるよう、各学校において、ポスター掲示や関連の児童図書を整備したりするなどの環境づくりを進めること。
また、文科省の通知や手引きを活用したり、講師を招いて学習したりするなど、研修のための取り組みを進めること。

といった要請を行いました。
市町や学校によっては、すでに、「関連の児童用図書を図書館に整備した」「ポスターを掲示してある」「学習会を開いた」などの対応が見られています。

エアコン設置 計画が進む

大口町以外では、尾北では、扶桑町で昨年度から全教室へのエアコン設置が始まりましたが、他の市町でも、小中学校の全教室へのエアコン設置に向け、検討と計画が進められています。

犬山市では、「平成30年〜33年にかけて全校に設置する」ことが示され、「広報紙やま」を通じ、すでに市民にも明らかにされています。

岩倉市では、「今後、2〜3年を目処に設置したい」と方向性が示されています。江南市でも、設置に向け、「どついう形で設置するかを検討している」と説明がなされました。

★市町教委と校長会への要請書の全文、県教委の「教員の多忙化解消プラン」、各市町の教員の多忙化解消方針は、尾北教労のホームページからご覧になれます。
(「尾北教労」で検索)
また、人事異動に関することや職場で困ったことなども、ホームページのメール等で相談ください。

